このまちを、京都をもっと好きになってもらいたい

―陶点晴 かわさき―

お話をおうかがいした河﨑さんご夫妻

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は五条坂にある陶器屋「陶点晴 かわさき」さんです。江戸時代から代々続く老舗陶器店を営まれる一方、さまざまな地域まちづくり活動にも参加されています。ご主人の河﨑尚志さんと奥様の菊子さんにお話をうかがいました。

お店について教えてください

先祖は江戸時代から五条坂で陶工をしていました。5代目の時に陶器商も兼ねるようになりこの場所に店舗を構え、私たちで8代目になります。京焼・清水焼をはじめ、信楽焼など普段使いの器を中心に、色んな器を揃えています。お店の建物は5代目の時に建てた築120年ほどの京町家で、五条坂の景観を守りたい、機能の優れた町家を残したいとの思いから、京町家まちづくりファンドも活用して14年前に改修しました。

どのような活動をされていますか

昔ながらの陶器屋の組合の活動に参加するとともに、毎年8月に行われる「京都五条坂陶器祭」では実行委員長として運営に携わっています。より特色ある素晴らしい祭になるようメンバーと協力して頑張っています。また、「東山・人と地域の魅力発見チーム」というグループをつくって、地域の方々にまちの魅力を伝えるさまざまなイベントを行っています。かつてヨーロッパを旅行した際、住人の方たちがまちにとても誇りを持っていることに感銘を受けました。同じように地域の人たちが自らのまちを好きになり、守っていこうという思いを高めてもらえればと始めました。外部の方に向けては、五条坂をめぐるツアーのガイドをしています。何気ない風景でも、少し説明を加えることでいきいきと表情を持って見えてきます。たとえば工房を訪ねて作家さんと参加者が話をすることにより作家さんの意欲が高まるなど、地域の方々にもよい効果が出て、まちの活性化につながっています。

ツアーガイドを行う河﨑さん

まちに対する思いを聞かせてください

先代からお店を引き継いで30年、まちの様子もずいぶん変わりました。陶器屋さんの数は半分位に減ってしまい、古くからの陶器業界のつながりや住民のコミュニティが失われつつあります。京都が魅力あるまちでありつづけるためには、古いお寺や神社が点としてあるだけでなく、面としての景観や伝統的な暮らしを守ることが大切です。伝統文化に根ざせば、多くの職人さんたちの仕事を支えることにもつながります。観光客もそんな京都を期待していると思います。

訪れた人に少しでも京都を好きになってもらいたいと、道案内だけでもていねいにご説明させていただき、「こんなものを食べたい」といった質問にもできる限りお手伝いしています。観光客の増加でさまざまな問題が起きているのは事実ですが、ハード面の不足をソフト面でおぎなえることがまだまだあると思います。

暮らす人が自分のまちを本当に好きになれば、訪れる人にもそのよさを知って欲しくなり、自然とおもてなしの心が生まれます。多くの人がこのまちの魅力に気付けば、ますますまちはよくなります。そのためにこれからもどんどんまちの魅力を発信していきたいと思っています。

河﨑さんがガイドを務め五条坂をめぐるツアーは、
「まいまい京都」で不定期開催中。次回は秋頃開催予定です。
詳しくはhttps://www.maimai-kyoto.jp/
（参加費の一部が京町家まちづくりファンドに寄附されます）

ニュースレター 京まち工房 90
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

特集 P2-3 誌上 オープンキャンパス！ 景観・まちづくり大学

CONTENTS

P1 京都人㋜の京都知らず　P4-5 防災まちづくり
P6 地域まちづくり・京町家の専門家紹介／ようこそ！まちセンへ
P7 賛助会員募集／御寄附いただいた皆さま／京都人㋜の京都知らず 編集後記
P8 企業（賛助団体）紹介・陶点晴 かわさき

令和2年度賛助会員募集中！

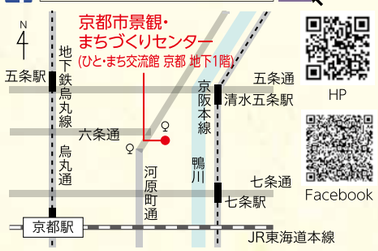
入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆さま

「京ぐらし」ネットワーク	ぐるっとVIEW.G	アルパック 株式会社地域計画建築研究所	ISETAN
「後悔のない相続」をコーディネート 相続センター	フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル
京町家居住支援者会議	公益社団法人 京都市観光協会	be-kyoto	株式会社都ハウジング
大阪ガス	一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	RITSUMEIKAN	京町家をお探しします。株式会社 八清（ハチセ）
京都信用金庫	SAPPORO	中藏	京都でんき
京都中央信用金庫	住宅金融支援機構		

ニュースレター 京まち工房　第90号　2020年3月　編集・発行 公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
ＨＰ：http://kyoto-machisen.jp
京都市景観・まちづくりセンター



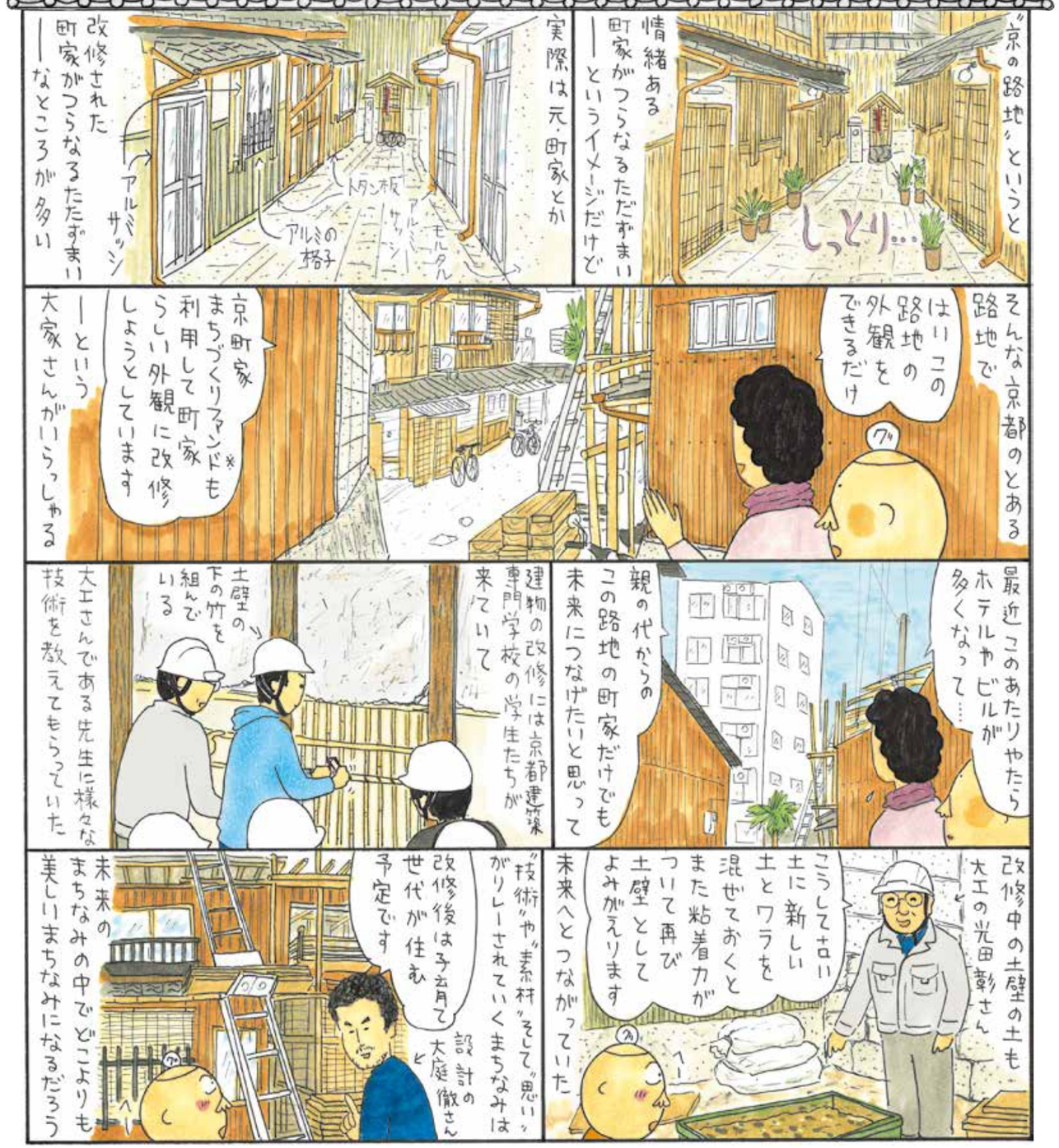
※センターへお越しの際は公共交通機関をご利用下さい。

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京まち工房 ニュースレター 90

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

グレゴリ青山 京都人㋜の京都知らず　その8 リレーされるまちなみ



※京町家まちづくりファンドでは、皆さまのご寄附をもとに、京町家の保全・再生と通り景観の修景の取組を支援します。

誌上 オープン キャンパス！ 景観・まちづくり大学

京都市景観・まちづくりセンター（まちセン）では、「京都のまち」を、歴史や景観、まちづくり、京町家での住まい方など、多様な視点からその特性や魅力を学び、考える講座を「景観・まちづくり大学」として開催しています。受講をされた方が、京都らしい美しい景観を守り、安全で安心な魅力あふれるまちづくりの担い手となっていただくための入門講座となっています。

今回は、「京のまちづくり史」を中心に、景観・まちづくり大学の各講座をご案内します。

京のまちづくり史連続講座

京都のまちはどの様に成立し変遷してきたか、時代とともに景観やコミュニティはどのように変わったのか、「学区による自治」など京都特有のまちづくりはなぜできあがったのか？京都の歴史とその中で生き抜いてきた先人の想いや知恵を学び、現代のまちづくりに活かし、私たちのこれからの景観・まちづくりを考えるための講座です。

令和元年度の講座の中から、いくつかの講座をご紹介しましょう。

高橋先生 講義風景

京都大学名誉教授 高橋先生

京のまちづくり史：古代から近世

初回はまちづくり史総論です。京都の原点となる「平安京」のランドスケープデザインからお話が始まりました。「条」「坊」などの街区を基本とする計画都市「平安京」が、室町時代までの数百年をかけて、都人が「住みこなす」（暮らしに便利・快適な様に生活・商業空間などを創り出す）様子、戦国時代から豊臣時代にかけて、自治・自衛・共助のため「町」、町衆が誕生し、「住みこなし型まちづくり」の集大成として「計画型まちづくり」や豊臣秀吉の京都大改造が行われるまでの、京都人の絶え間ない努力の積み重ねを、わかりやすくお話いただきました。

昨年度（令和元年度）の京のまちづくり史 年間ラインナップ

- 5月 京のまちづくり史：古代から近世
  髙橋 康夫氏（京都大学名誉教授）
- 6月 京都の近代：歴史都市はどうデザインされたか
  中川 理氏（京都工芸繊維大学教授）
- 7月 まちづくりの場としての元校舎 ―明倫学区を事例に―
  和崎 光太郎氏（浜松学院大学短期大学部講師・京都市学校歴史博物館顧問）
- 8月 地蔵盆とまちづくり
  前田 昌弘氏（京都府立大学准教授）
- 9月 京のまちづくり史関連企画 まちあるき講座「鴨川・高瀬川・先斗町花街成立の都市空間を歩く」
  神戸 啓氏（先斗町まちづくり協議会事務局長）
- 10月 「山紫水明」の真実
  中嶋 節子氏（京都大学大学院教授）
- 11月 歴史と水辺のまち 京都岡崎の文化的景観
  石川 祐一氏（京都市文化財保護課主任・文化財保護技師）
- 12月 北山杉の里の集落・民家・小屋・暮らし
  大場 修氏（京都府立大学大学院教授）

令和２年

- 1月 地図で読む 京都における近代以降の街の拡大
  河角 直美氏（立命館大学准教授）
- 2月 都心回帰と縮小社会のコミュニティ運営
  田中 志敬氏（福井大学講師）

地蔵盆とまちづくり

第4回のテーマは地蔵盆。子どもが少なくなった現在、地蔵盆はさまざまな年代が集まり、地域の縁を作り支える「核」としての役割が期待され、開催方法も多様化しています。大人だけで続けられる地蔵盆、防災訓練やAED訓練も併せて開催される地蔵盆など。地蔵盆の歴史を振り返りながら、新しい地蔵盆の形の事例が紹介されました。地域のレジリエンス（危機に対してしなやかに対応する力）の資源として、発展していく可能性を感じました。受講生から、自分の町内会でも参考にしたいとの声がありました。

京都府立大学准教授 前田先生

先斗町 まちあるき

先斗町まちづくり協議会事務局長 神戸先生

まちあるき講座「鴨川・高瀬川・先斗町花街成立の都市空間を歩く」

今回は、先斗町を訪ねました。講義では、鴨川が蛇行しており、それが先斗町の成立に関わっていること、先斗町は区画整理がなかったため、江戸時代からの京町家が残っていること、昔は迷路の様にもっと路地があったなどのお話がありました。まちあるきでは、講義の内容を確認しながら、昔の路地の形跡を見たり、道の勾配を体感したりもしました。無電柱化工事が進捗中で、先斗町公園の北側と南側で電線のない景色とある景色の違いが見られる貴重な機会もありました。

地図で読む 京都における近代以降の街の拡大

まち史初登場の河角先生は、歴史地理学がご専門です。明治中期～昭和中期の京都の地図の比較から、建物の分布や広がり方の変遷を解説いただきました。郊外へと市街地が広がったのは、ここ100年余り。新中間層の住宅地として、庭付き一戸建てや別荘地などが開発され、通勤の利便性を考えなくてよい大学の教員や画家が居住し、新たな建物・文化が広がりました。鳥の目、蟻の目で地図を分析する視点も学びました。

立命館大学准教授 河角先生

京町家再生セミナー

京町家再生セミナーは、京町家の所有者や居住者、居住や活用を検討している方向けのセミナーです。年間を通じて、改修の手法、相続、資金調達、活用方法など、今すぐ役立つ京町家の保全・再生に関する専門知識をわかりやすく学べます。

セミナーの形式には、座学と京町家再生見学会があります。座学は専門家から京町家の最新情報をお伝えし、見学会は実際の京町家をご覧いただく貴重な機会となっています。

令和元年度に開催した見学会の様子は、「京まち工房」88号と89号にて紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

京町家 再生見学会の様子

昨年度（令和元年度）の京町家再生セミナー 年間ラインナップ

- 4月 京町家に安心、安全に暮らし続けるために
  木村 忠紀氏（株式会社木村工務店）
  奥田 辰雄氏（木四郎建築設計室）
- 5月 京町家の改修に役立つ助成制度を知る
  京都市各助成金担当
- 6月 大工さんに聞く京町家改修（※京町家再生見学会1）
  田原 利晃氏（京都府建築工業協同組合）
  狩野 文博氏（京都府建築工業協同組合）
- 7月 京町家の保存と活用にむけての改修事例
  古賀 芳智氏（株式会社KOGA建築設計室 代表取締役）
- 9月 京町家の税金について学ぶ
  辻本 尚子氏（株式会社みやこ不動産鑑定所 代表取締役）
- 10月 京町家の座敷飾り：重陽の節句を愉しむ（※京町家再生見学会2）
  伊藤 正人氏（大阪市立大学名誉教授）
- 11月 京町家を売るとき・貸すときのイロハ
  井上 信行氏（エステイト信 店主）
- 12月 京町家の初冬の庭：庭師とともに 夕暮れの庭を訪ねる（※京町家再生見学会3）
  木村 孝雄氏（株式会社京都景画 代表取締役、京の名工）

令和２年

- 1月 備えて安心 京町家の相続と税金
  井上 誠二氏（一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会）
  武村 治寿氏（一般社団法人相続相談センター・税理士法人総合経営）
- 2月 京町家ではじめる「温故知新」な暮らし
  美濃羽 まゆみ氏（手づくり暮らし研究家）

※都合により休講となりました。

地域まちづくりセミナー

京都にお住まいの方を対象に、まちづくりを始めるきっかけづくりや、まちづくりに関するより実践的な方法を知っていただくためのセミナーです。

5月には、私たちのまちがこれからも住み心地のよいまちであるために「都市格のあるまちとは」を考えるため、大阪市立大学名誉教授、宮本先生をお招きし、講演会を開催しました。

令和２年度の景観・まちづくり大学にもご期待ください！

令和2年度の景観・まちづくり大学でも、京都のまちづくりを志す皆さまに、新しい視点で学び、考え、実践につながる講座を企画しております。詳しくは、季刊の景観・まちづくり大学の案内チラシをご覧ください。

また、ご受講の際、アンケートでご受講されたいテーマや講師についてうかがっております。よりよい講座を企画してまいりたいと思いますので、ご意見をお寄せください。

なお、京のまちづくり史連続講座では、通年受講の制度がございます。ご関心のある回のみの単回受講もできますが、通年での受講をお申込みいただくと受講料がお得になります。ぜひ、ご検討ください。

いつかあなたも当事者に!?
どうする避難所運営！
～ゲームで参加、防災まちづくり～

災害が頻発する近年、ゲーム形式で気軽に避難所の運営を体験できる**「避難所運営ゲーム（HUG・ハグ）」**が注目されています。自分たち自身で避難所を運営することをイメージするところから、今後、災害に強いまちを目指す防災まちづくりの取組へのつながりが期待されます。

避難所運営ゲーム（HUG）とは??

もし、あなたが避難所の運営をしなければならない立場になったとき、殺到する人々や出来事にどう対応すれば良いでしょうか?

HUGは、避難所運営をみんなで考えるためのアプローチとして、避難者の年齢や性別、国籍、それぞれが抱える事情や、避難所で起こりえるさまざまな出来事が書かれたカードに対して、どう対応していくかを考え、避難所の体育館や教室に見立てた平面図に配置することで、避難所運営時の考え方や判断を模擬体験するゲームです。

参加者は、このゲームを通して災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、意見を出しあい、話し合いながら、ゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。

避難所のH、運営のU、ゲームのGの頭文字をとってHUG（ハグ）。英語で「抱きしめる」という意味で、避難者をやさしく受け入れる避難所のイメージで、静岡県が2007年に開発しました。

（静岡県地震防災センターHPより一部引用）

まちセンとHUG

HUGは発災後を想定したゲームですが、まちセンが地域の皆さんや行政などと連携して取り組んでいる**「防災まちづくり」は**、地震などの**災害が起こる前に**、**家や道**、そして、**まち全体の安全性を高め**るための取組です。路地沿いの古いブロック塀の除却など具体的な対策の実施に加え、まちの課題を知り、共有することなど、**地域の防災意識を高め**ることで、**災害に強く住みよいまちをつくること**を目的としています。

HUGのようなゲームを活用することで、まずはまちづくりへ参加しやすい場を設け、ゲームの体験を通して、みんなで協力し合う防災まちづくりへの関心を高める第一歩になると考えています。

まちセンでも体験しました！

多くの避難所で運営支援を経験した被災地NGO協働センター代表の頼政良太氏を講師に招き、避難所の実情やこれまでの避難所運営の体験を伺うとともに、京都市職員・まちづくり専門家を交えながらゲームを体験しました。

ゲームから見えてきた多くの問題の中から、事前に対応可能なことや今後の防災まちづくり支援に活かせられることなどを検討しました。

HUG体験中

頼政さんのお話から
災害時には、地元での支え合いが大切です。日常の延長で、支援活動をやってみること、また、被災した当事者もできることはやる、という意識が大切です。

頼政 良太氏（被災地NGO協働センター）

防災まちづくりでの活用事例

京都市でも、多くの地域や活動団体で活用されています。

本能学区（中京区）

平成31年度から京都市の防災まちづくりに取り組み始めた本能学区（中京区）では、「防災訓練」にHUGを取り入れました。

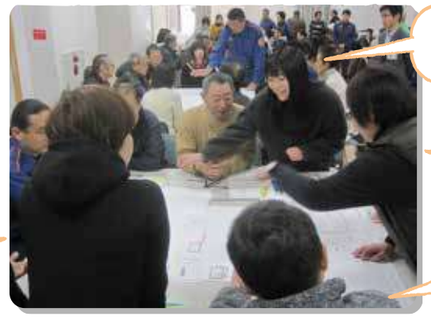
大規模災害発生直後は行政からの支援を受けることが難しく、住民自身で避難所の運営が求められると言われています。運営者も被災者であり、避難者はお客様ではありません。誰もが避難所運営に関わるということを自覚し、お互いに助け合う意識を高めていきたいと思います。

倉部邦夫さん
（本能学区自主防災会会長）

体験後の振り返りでは、こんな意見が

お互いに声が気軽に掛けられるようなご近所コミュニケーションが大事だね。

地域の集合場所の公園にもかまどベンチがあると良いね。



自分に何ができるか考えることが大切！

マンションでも防災意識を高めなければ！

今回のような地域の話し合いをもっと深めたい！

日頃の地域のつながりから防災力を高める意見や、避難所の設備不足に対応するための具体的な提案など、ゲーム後の振り返りから多くのアイデアが出されました。

今後、避難所運営マニュアルの改定の際には、それらのアイデアを参考にマニュアルに反映させることも検討されています。

有隣学区（下京区）

有隣学区では、地域の皆さんがまちづくりについて語り合う「ゆうりんカフェ」にて、HUGを実施しました。参加メンバーを変えながら複数回実施しましたが、毎回多くの方が参加し、避難所運営の大変さを擬似体験されました。

「ゆうりんカフェ」を主催する有隣学区まちづくり委員会は、昨年度完成した『防災まちづくり計画』を受け、今年度は避難所運営について検討しています。HUG体験はそれらの取組を知ってもらう機会としても位置付けられています。

HUG体験後、「有隣独自の事情をカードに反映させてみる」という設定で、オリジナルカードを検討しました。災害時に有隣学区で何が起こるのか、どのような人々が被災者となるのかについて、さまざまな意見が出されました。

※有隣学区の防災まちづくりの取組は、京まち工房88号でも紹介しています。

本能学区の防災訓練では、お父さんと一緒に参加した小学生の子どもさんも積極的に意見を出していたのが印象的でした。
まちづくりは、誰でも参加できることが重要です。まちセンでは、まちづくりに取り組むきっかけづくりを始め、地域の防災まちづくり、HUG体験会の運営等、さまざまな取組支援をおこなっています。
お気軽にご相談ください。

第17回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

暮らしの豊かさをつなぎたい

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い想いをもって京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介しています。

今回はこの方！

牧野 杏里（まきの あんり）氏　京都市総合企画局総合政策室 市民協働推進コーディネーター

東京藝術大学大学院美術研究科修了後、設計事務所勤務を経て渡英。ユニオン財団在外研修生としてロンドン大学大学院都市再生学科修了。帰国後、まちセンのまちづくりコーディネーターとして5年間勤務。現在は、まちづくり専門家として今熊野学区の防災まちづくり支援をはじめ、景観まちづくりや空き家対策など、地域課題の取組支援に従事。また、京都市の市民協働推進コーディネーターとして、市民団体などの活動支援も行う。東京都出身。

建築デザインからまちづくりへ

もともとデザインに興味があり建築学科に入学しました。設計を学ぶうちに、人の暮らしに関わるデザインをする上で、建物単体の空間性だけではなく、土地固有の場所性や周辺環境との関係性の大切さを学び、視点がまちへと広がっていきました。その後、オフィスビルやホテルなどの設計業務に携わる中でも「集う人、使う人の顔が見える場をつくりたい！」という想いが強くなり、市民とのパートナーシップで建築やまちづくりを進める土壌のあるイギリスへ留学。現地での調査を通じて、地域や行政の間に立つ中間支援組織の役割や意識の高さ、魅力的な活動を目の当たりにしました。帰国後、京都に中間支援組織として20年近い歴史を持つまちセンがあると知り、イギリスでの学びを実践で役立てたいと思い、京都にやってきました。

京都で感じたシビックプライドの精神

まちセン在職中は、まちづくりコーディネーターとして、協議会の立ち上げや地域のルールづくり、景観や防災の計画づくりの支援に携わりました。まちセンでの本当に幅広い経験の中で、「地域の方たちが、まちのためにやりたいと思ったことを、やりたいと思った時に、自分たちで取り組める環境をつくること」が、自分たちのまちや暮らしをつくる、ということにつながるのではないか、と思うようになりました。そのためには、どんなタイミングで、どのような支援や関わり方が必要で、どんなチームや仕組みをつくることが大事かなど、試行錯誤をしながらの5年間でした。

そんな私は、地域の方々に育てられました。私は京都出身ではないため、最初は地域の方との距離感もわからなかったのですが、地域で物事を進める上での考え方、押さえるべきことなど、いろんな地域の方の哲学に触れ、皆さんの暮らしがまちへの思いでつくられていることを学びました。その経験があって、現在も新たな地域での取組を進めることができています。

視野を広く、クリエイティブに

「公共資産の地域運用に関する研究」を今年度から再開し、先日イギリスでヒアリングを行ってきました。特に印象的だったのは「（中間支援に関わる私たちが）地域のことをまず一番に理解すること。そしてクリエイティブであることが重要」という言葉です。時代が変化する中でも大切にしたい、地域で暮らす人々の思いや本質的な価値を、いかに未来につなげるかは、必ずしもお金や数字ではなく、創造力を持つことが大事だと。

国を超えて共感し合えたことは励みになりました。景観、防災などテーマによらず、この姿勢を大切に、地域の皆さんの暮らしの豊かな魅力を引き出せるよう、今後も活動したいと思います。

今熊野学区防災まちあるき

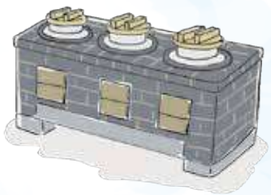
ようこそ！まちセンへ

視察でまちセン※を訪れた方をご紹介する「ようこそ！まちセンへ」。
今回は、茨城県つくば市の茗溪（めいけい）学園中学校3年生の皆さまです。
この研修のため、事前に時間をかけて準備されたそうで、
14名の生徒さんから熱心な質問が次々と飛び出しました。

皆さまからのご質問は、「今、京町家に住んでいるのはどのような人ですか」「京都に住んだり、働いたりしている人は京町家をどう思っていますか」「京町家ブームで、京町家の数は増えましたか」など。当財団の梶山次長が、京町家の特徴や活用事例、地蔵盆など四季を楽しむ暮らしぶりもまじえてご説明しました。

ちょっと驚いたのは、「おくどさん（かまど）の言葉の由来を教えてください」というご質問があったこと。実は私も知りませんでした。諸説ありますが、煙の通り道「燻道（くんどう）」からきた言葉ともいわれているそうです。

そういえば、京都では「お稲荷さん」「お芋さん」など、色々な言葉に「お」「さん」をつけます。おくどさんは、食事を作る場所を大切にしていたことが伝わる、素敵な言葉だと気づきました。



※まちセン＝公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

令和２年度賛助会員募集中！

当財団は、住民・企業・行政が力を合わせて、美しい京都のまちを守り育てていく、パートナーシップのまちづくりを推進しています。
活動趣旨に賛同していただける方を賛助会員として募集しています。

年会費	
個人１口	5,000円
団体１口	50,000円

入会をご希望の方は、当財団にお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。
賛助会員お申込みのご案内ページはこちら ➡ http://kyoto-machisen.jp/partner

※当財団の賛助会員は、公益財団法人に対する寄附として、**税の減免措置を受けることができます。**

- 特典1 ニュースレター「京まち工房」の送付
- 特典2 各種セミナー・イベントのご案内（随時）
- 特典3 当財団ホームページへのバナー掲載（団体会員のみ）

令和元（平成31）年度は下記の皆さまにご入会いただきました。ご支援ありがとうございました。

●個人会員　赤星 周平、荒井 孝、荒川 朋彦、生駒 勲、石原 一彦、石原 敏彦、稲木 藍、井上 誠二、井上 信行、井上 道子、伊藤 正人、岩﨑 清、岩﨑 亘男、上原 智子、卯滝 朝子、梅澤 優司、江田 頼宣、大﨑 弘晃、太田 滋子、太田 昌志、大前 温彦、岡﨑 篤行、岡本 正二、奥 美里、尾崎 学、小田 厚子、梶山 真樹、片山 隆一、門川 信一郎、河村 宏、川本 淳一、神吉 紀世子、北川 洋一、木股 博一、来海 賢一、木村 忠紀、木村 眞紀子、桑原 尚史、小谷 啓太、小西 菜月、小西 正直、小西 吉治、小山 幸司郎、金剛 育子、坂本 登、坂本 正壽、佐藤 友一、佐藤 七重、真田 松寿、鮫島 恵子、柴崎 孝之、島田 和明、清水 博之、杉崎 和久、杉本 昇治、鈴木 知史、炭崎 勉、高井 均、高川 祐子、髙木 勝英、髙木 貴子、高木 伸人、高橋 宏幸、立石 涼一、田中 照人、谷口 一朗、多児 貞子、谷村 寧昭、太平治家、辻 勇治、恒成 恒、寺島 彰、寺田 泰三、寺田 敏紀、寺田 史子、寺谷 淳、寺本 健三、内藤 郁子、中島 吾郎、中島 弘益、中司 小百合、中村 進一、中村 有希、中山 雅永、西川 武士、西澤 享、西村 健、野間 久世、歯黒 健夫、橋本 操、畑 正一郎、籏 哲也、早﨑 真魚、林 建志、林 茂、林 道弘、平井 義也、平竹 洋子、吹上 裕久、福林 文孝、福本 元気、福本 紗和、二松 康、冨名腰 隆、舩橋 律夫、平家 直美、堀 有輝子、前岡 照紀、牧野 忠廣、水口 義晴、宮川 邦博、宮川 明子、宮本 日佐美、宮脇 和生、森川 敏隆、安本 典夫、柳原 博實、山内 典子、山本 耕治、吉田 光一、その他氏名非公開13名（五十音順、敬称略）

●団体会員　大阪ガス株式会社、京ぐらしネットワーク、京都駅ビル開発株式会社、公益社団法人京都市観光協会、京都信用金庫、京都中央信用金庫、一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会、京都ライフソリューション株式会社、京町家居住支援者会議、サッポロホールディングス株式会社、株式会社GRT、株式会社ジェイアール西日本伊勢丹、住宅金融支援機構、株式会社ステーション、一般社団法人相続相談センター、株式会社地域計画建築研究所、株式会社中藏、株式会社八清、株式会社フラットエージェンシー、平安建材株式会社、株式会社都ハウジング、学校法人立命館大学、その他社名非公開1社（五十音順、敬称略）

2019年　京町家まちづくりファンドに御寄附いただいた皆さま

皆さまの御支援に深く感謝申し上げます

●個人　井上 誠二、角川 裕次、河崎 尚志、北村 チエ子、木股 博一、芝原 久美代、髙木 貴子、徳光 都妃子、西村 孝平、宮本 日佐美、望月 幸夫、ご芳名の非公開希望を合わせた12名の皆さま（五十音順、敬称略）

●法人・団体　株式会社井筒八ッ橋本舗、株式会社伊藤園、FVジャパン株式会社、株式会社大下工務店、京果 京都青果合同株式会社、京都クレジットサービス株式会社、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、株式会社さんけい、有限会社鈴木モータース、株式会社辻工務店、株式会社ニシザワステイ、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、一般財団法人長谷川歴史・文化・交流の家、株式会社フージャースホールディングス、まいまい京都、株式会社都ハウジング（五十音順、敬称略）

京都人の京都知らず 編集後記

京都のとある路地、そこはオモテの道から入った袋路。（行き止まりの路地のこと、でも実はこの路地は緊急避難口のごとく裏側へ抜ける通用口があります。）その袋路に面して建つ長屋の改修工事現場へグレゴリさんと訪れました。今年度、京町家まちづくりファンドの改修助成事業として選定された「通り景観修景」事業のひとつです。

思いあふれる大家さんとその思いを汲み取る設計者、実現させていく施工者が協力し、未来を担う京都建築専門学校の学生さんたちが技術を学びながら改修工事はすすめられています。そして工事がいったん完成してからは、ここに住まい、路地に集うご家族で、この路地と地域の次のステップをつなげてほしいと願います。

「京町家まちづくりファンド」は、篤志家の方からのご寄附をきっかけとして設立された基金で、多くの方や企業からのご寄附をいただいて、この改修助成事業の費用に充てさせていただいています。京町家と通り景観の修景工事のみならず、ここから続く未来への応援となっています。（小出）

著者：グレゴリ青山

漫画家、イラストレーター。1966年、京都市生まれ。壬生の地で生まれ育つ。現在は京都府亀岡市在住。京都人による京都発見本『深ぼり京都さんぽ』（集英社インターナショナル）、京都が舞台の少女漫画『薄幸日和』（小学館）、京都のガイドブック『ねうちもん京都』（KADOKAWA）など、京都関連の著書多数。